

# 下水道管路施設巡視業務特記仕様書

(業務場所の所在地及び名称)

第1条 受注者が業務を履行する業務場所の所在地及び名称は、次のとおりとする。

所在地：兵庫県赤穂郡上郡町光都地内外

名称：西播磨高原公共下水道管路施設（以下「下水道施設」という。）

(一般事項)

第2条 受注者は、業務委託一般仕様書（以下「仕様書」という。）第36条に定める年間下水道管路施設巡視業務計画に、巡視の順序等を定めること。

- 2 受注者は、巡視にあたり、騒音規制法、振動規制法及び公害防止関係法令に定める、規制基準を遵守するために必要な措置を講ずること。
- 3 監督員が事故防止上危険と判断した場合は、巡視の一時中止を命ずることがある。
- 4 巡視にあたり、道路その他の工作物を、汚損ならびに破損させないこと。万一、汚損ならびに破損させた時は、監督員に報告し必要な措置を講ずること。汚損並びに破損の復旧等に係る費用は受注者の負担とする。
- 5 巡視中、通行、交通に支障をきたす道路陥没、マンホール蓋の破損等を発見した際は、監督員の指示があるまで通行人の安全及び交通の円滑な処理に努め、現場の保安対策を十分に講じることとする。
- 6 巡視終了後は、すみやかに使用機器、仮設物等を撤去し、調査箇所開放に努めること。

(業務内容)

第2条 管路施設巡視業務は、マンホール・空気弁・仕切弁（以下「マンホール等」という。）の蓋を開けずに、下水道管路施設、放流管路、雨水斜水路（以下「管路」という。）が埋設された地表面やマンホール等の蓋の状態、水管橋（橋梁添架を含む）については、管体および附属施設の状態、斜水路については、躯体の状態などを確認する。

- 2 業務範囲については別紙1に示すとおりとし、2年で1巡すること。

各年度に巡視する範囲については、均一になるよう計画・実施し、異状を発見した際はすみやかに監督員に報告するものとする。

(業務詳細)

第3条

(1) 年間下水道管路施設巡視業務計画

受注者は、巡視にあたり、事前に次の事項を記載した巡視計画書を提出すること。

①巡視概要

②現場組織（職務分担、緊急連絡体制等）

③巡視計画（使用機器、巡視方法、実施工程等）

④安全計画（保安対策、道路交通の処理方法等）

⑤その他監督員の指示する事項

（２）巡視機材

巡視に使用する機材は、常に点検し、完全な整備をしておくこと。

（３）巡視時間

地上交通に支障となる作業を行う場合には、道路使用許可条件を厳守すること。

（４）巡視

管路施設の大部分は地下構造物であり、地上の巡視は、その項目に限られるが、面的に広い範囲にわたっており、それを効率的に行うには、計画的に実施する必要がある。

写真撮影は、巡視年月日、巡視場所、異常内容等を明記した黒板を入れて行い、１０ｍ程度当たり１枚を標準とする。ただし、水管橋は全数１枚、斜水路については、水路下流端より水路全体が見通せる写真１枚を標準とする。

巡視項目とその内容を以下に示す。

１）地表面の状況：地表面の沈下・亀裂・陥没の有無

２）施設の状況：①マンホール等蓋の据付不良や破損、②水管橋管体・付属設備の破損や腐食・漏水の有無、③斜水路の閉塞・躯体の破損等

３）その他：①異常臭気、②不正使用や占拠、③公共用水域への汚水の流出

（５）交通誘導員の配置

交通誘導員は、１班当たり２名の配置を基準とするが、道路管理者等許可権者の指示並びに現場の状況により増員が必要と判断される場合、配置を増員すること。なお、雨水斜水路点検については、交通誘導員は必要としない。

（報告書）

第４条

（１）巡視結果は、下水道施設維持管理積算要領－管路施設編－の記載要領を参考に報告書を作成し、仕様書第３８条の年間業務完了報告書として提出すること。

（２）巡視結果の記録及び判断基準については、マンホール等は様式１による。水管橋ならびに斜水路については、仕様書第４１条に基づき作成すること。

（３）提出書類については、次のとおりとする。

１）報告書

２）写真帳

３）CD-ROM等の電子媒体（組合との協議による。）

４）その他監督員の指示するもの